



フィグ・ヤーパン通信

第 22 号

FIGU-JAPAN BERICHT, Nr.22

発行日 2005 年 4 月 1 日

発行 フィグ・ヤーパン <http://jp.figu.org/>

新刊予告『プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(2)』

フィグ・ヤーパンでは、昨年 11 月に出版した『プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(1)』のシリーズ続編となる新刊書を準備中です。ここでは一足早く、新刊書に掲載予定の「第 10 回会見」から、その内容の一部をご紹介します。この会見でセミナーゼは、地球人にとって非常に重要な「霊の教え」について解説しています。

セミナーゼ：人間は 1 つの霊 (Geist) の担い手です。霊は死ぬことがなく、人間が深い眠りの中にあっても常に目覚めていて、すべての思考と感情を記録します。人間が霊に耳を傾けることを身に付ければ、自分の想念が正しいかどうか霊が教えてくれます。人間の内部にあるこの霊は、創造の王国の担い手です。そしてそれはすべての人間に備わっているのです。人間が天国とか自らの内なる天国などと言い、創造や真理、知識や英知、霊や意識、そして実在という言葉語るだけでは満足しないのは不可解なことです。人間が切望するもの、それは永遠の生命、不滅の平和、決して消滅することなく永遠に持続する霊的意識的な豊かさの、絶えることのない喜びの中に在ります。天も地も滅び去ります。しかし、真理、知識、英知、そして霊は決して変わることも消滅することはありません。霊と意識は、完全、調和、平和、認識と洞察、知識、英知、真理、美、愛、そして真の「存在」、永遠に続くこれらすべてのものの訪れを、待ち受けているのです。これらのすべて

が一体となって、霊の王国を作り上げるのです。これらすべては創造的なものの中に現存しているのです。それらは独創性の中の独創性として、旋律の中の旋律として、能力の中の能力として、創造の原理の中の至高の原理として、あらゆる奇跡に勝る奇跡として実在するのです。創造が意識して世界を創り出すように、人間は夢の中で奇跡の世界を創り出すことができます。この能力は人間の意識から生じるものです。すべての奇跡が人間の中にあるように、意識もまた人間の中に実在しているのです。人間自体が天国、すなわち創造的なものの王国なのです。それゆえはるか昔の地球の哲学者は言いました。人間とは大宇宙の中の小宇宙であると。なぜなら宇宙の中に含まれているものはすべて、人間の中にもあるからです。(第 10 回会見より)

新刊書の出版は 8 月を目標にしています。次号の『フィグ・ヤーパン通信』にて、詳細をご案内予定ですので、どうぞご期待ください。



プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(2)
(水瓶座時代出版刊)

ヘノクとエノクに関する明確な説明または預言者史に関する短い講義

ハンス・ゲオルク・ランツェンドルファー (スイス)

以下の文章は、2004年4月30日2時5分に行われた「ビリー」エドゥアルト・アルベルト・マイヤー (BEAM)との会見に基づき、とりまとめたものである。

「ビリー」エドゥアルト・アルベルト・マイヤー (BEAM)の預言者としてのミッション及び任務と関連して、著作や歴史的関連においてヘノク (Henok)とエノク (Enoch)という2つの名前が挙げられている。なかでも決定的なのは『OM』第20章95節以下、ならびに第33章102節以下である。

・『OM』第20章

地球の人類及び民族には昔から預言者が与えられてきた。すなわち(1)エノク(紀元前9308年2月3日)、(2)エリヤ(Elia:紀元前891年2月5日)、(3)イザヤ(Jesaia:紀元前772年2月7日)、(4)エレミヤ(Jeremia:紀元前662年2月9日)、(5)イマヌエル(Jmmanuel:紀元2年2月3日)、そして(6)モハメッド(Mohammed:紀元571年2月19日)が、霊形態の不断の再生において相次いで送られた。これらと並んでヨハネス(Johannes)、エリアス(Elias)、ヨブ(Hiob)、そしてその他の一群の誠実で正しい者、たとえばブッダ(Buddha)、ゾロアスター(Zoroaster)及びババチ(Babatschi)なども送られた。(95節)

・『OM』第33章

それゆえ彼は長い間苦しむ人の子であり、多くの人生で預言者として生まれ変わり、地球上でヘノクとしてそのミッションを開始するが、別の時代にエリヤとして、それからイザヤとして生まれ変わり、そしてエレミヤ、イマヌエル及びモハメッドと続くであろう。(102節)

それゆえ時代の時が熟し、その名前が自らを宝の番人として示すとき、彼は(7)新時代の預言者となるであろう！(103節)

『OM』の上に挙げた節では、自己義務から、かつ自分自身の定めに従い数10億年来特別の任務とミッ

ションを果たしている7人の重要な預言者の名前が順番に挙げられている。そのミッションは、現代では地球外プレイヤー連盟のメンバーの協力を得て、「ビリー」エドゥアルト・アルベルト・マイヤー (BEAMとも呼ぶ)とFIGUの仕事において完結している。周知のように彼の正式の名前はエドゥアルト・アルベルト・マイヤー (Eduard Albert Meier) と言うが、彼はイランのテヘランでジュディー・リード (Judy Reed) というアメリカ人女性から「ビリー」という名前をもらい、パキスタンのカラチではイスラム教のシークという称号と「モハメッド・アブドゥラー (Mohammed Abdullah)」という名前を授かった。それぞれの名前の頭文字を順番につなげると、英語で「光線」を意味する「BEAM」という言葉になる。

ビリーという名前は、「意志」もしくは「意志の強い者」及び「保護」を意味し、概ね「意志の強い守護者」または「意志の強い庇護者」となる。エドゥアルトという名前は、ナウマン&ゲーベル出版から1987年に出た『名前事典』では、次のように解釈されている。「エドゥアルト、男、アングロサクソン系、Eadweard: ead = 所有、weard = 保護者。」アルベルトという名前の意味は、「高貴な輝く者」もしくは「高潔な輝く者」として伝えられている。モハメドは「称えられた者」、シークはアラビア語で「教主」を意味する(『プレアデス・プレイヤー人とのコンタクト記録』第5巻、167ページ参照)。この命名と名前の順序及びそれらが持つ特殊な意味を総合して見るならば、「ビリー」エドゥアルト・アルベルト・マイヤーもしくはBEAMが新時代の預言者として真の告知をなす者であることが推定されよう。「所有の保護者」という名前の意味は、地球外生命体が挙げた「宝の番人」という名前の解釈も許すものである(たとえばプターとの第239回会見、1991年12月20日)。

プター: エドゥアルトという名前について言えば、それは「宝の番人」を意味するが、親愛なる我が友エドゥアルトよ、君ほどこの名前に相応しい者は他にいない。

一見したところ、『OM』第33章102節では第20章95節に挙げた預言者とは異なり、7人の順番の中で最初にエノクではなくヘノクが登場しているように思える。この見かけの不正確さは、多くの読者の間に若干の誤解を引き起こし、FIGUのインターネット・フォーラムでも様々な質問が寄せられている。しかしいずれの節も正しく、憶測された記述の相違は歴史的及び時間的な要因によるものである。これについては次のように説明される。ヘノクとエノクは異なる人格の2つの異なる名前であり、2人が生きていた時代も非常に隔たっている。本来のミッションと任務はすでに約120億地球年経過しているのである。これは地球人にとっては想像もできないほど長く果てしない時間である。そのうえ数十億年も続くミッションの枠内でこの2つの名前は何度か異なる人格に用いられたことがあるという事実が、人がこの関連を理解するのを一層困難にしている。さらに最初ヘノクと呼ばれていた名前は、数十億年の時間が経過するうちにエノクに変化したりもしたのである。その後知られたように、ノコデミオン(Nokodemion)の新時代のミッションは約120億年前にはるかな星団の非常に遠く離れた世界で開始した。ノコデミオンは、進化を促進するという理由で作られた新しい民族の創始者として認められている。基本的な霊の教えや霊の教えのシンボルもノコデミオンと、ノコデミオンのすべての仕事とミッションを受け継いだヘノクという後の人格にも帰される。

これとの関連で、時間は種々の時代に区分される

ということについても初めて説明しよう。すなわち、いわゆる「古代」(120億年前～13500年前)、「中期／後期」(13500年前～紀元前891年2月5日)、それから「別の時代」(紀元前891年2月5日)から現代の「新時代」(紀元1844年2月3日～)である。約120億年前にノコデミオンが初めて登場したときをもって、いわゆる「古代」が始まった。続く40億年の間ノコデミオンは、数は知られていないが何度か同じ名前で種々の人格に現われ、そのミッションを果たした。約80億年前にその霊形態はもはやノコデミオンではなく、初めてヘノクという名の人間に生まれ変わった。このヘノクは、はるかな星団の遠く離れた惑星で、いわゆるヘノク族を創始するとともにある1つの新しい民族を生み出し、ヘノクとしてのミッションと任務を基礎づけた。

いわゆるヘノク族に関する興味深い関連は、1998年に刊行されたパンフレット『熟考に値する講演』No.4にも記されている。表題は「地球外生命体も人間にすぎない」とされており、ハンス・ゲオルク・ランツェンドルファーが与えた「地球外生命体」、「人間」、「DAM」、「アダム」、「OMEDAM」、「外ヒューマノイド」、「異ヒューマノイド」、「ヒューマノイド」、「アンヒューマノイド」、「非ヒューマノイド」などの名称と概念について説明したものである。

ヘノクが地球上に最後に登場したのは389000年前であり、それから約13500年前に初めてエノクと名前を変え、いわゆる「後期」の最初の預言者として登場した。この理由から『OM』第20章95節ではエノクについて、「地球の人類及び民族には昔か

〈関連書籍のご案内〉

エノクの預言 Henochs Prophezeiungen



ドイツ語原文対訳
A5判
31ページ
300円

預言者エレミヤとエリヤの予告 Voraussagen der Propheten Jeremia und Elia



ドイツ語原文対訳
A5判
51ページ
400円

ら(「古代」の終わりから「後期」の始めまでを想定) 預言者が与えられてきた。すなわちエノク...」とも言われているのである。約 13500 年前に登場した最初の預言者エノクの後に、やはりエノクという名前の 2 人の預言者の人格が続いた。これは我々の時代計算で紀元前 9308 年 2 月 3 日と、最後は紀元前約 4～5000 年、すなわち約 11000 年前と 6～7000 年前である。ここで注意しなければならないのは、同じ名前の預言者は地球におけるすべての転生が数に入れられるのではなく、3 回登場したうち 1 回だけ数えられるということである。なぜならば、ただ 1 人のエノクのみが直接地球人に対するミッションを果たしたのであり、他の 2 つの人生ではそのミッションに関しては、ヘノクやノコデミオンと同様「宇宙の深遠からやって来た者たち」のために活動していたにすぎないからである。このことは 13500 年前に及び 4～5000 年前に生きたエノクにも当てはまる。地球での本来のミッションにとって決定的に重要なエノクは、紀元前 9308 年 2 月 3 日に生まれたエノクであった。最後すなわち 3 人目のエノクの後継者としてエリヤ(紀元前 891 年 2 月 5 日生まれ)が、いわゆる「別の時代」の最初の預言者としてミッションを開始した。いわゆる「別の時代」の最後の預言者はモハメッドであり、その時代は 1844 年 2 月 3 日に終わり、この日をもっていわゆる新時代が始まった。この順番で 7 人目、すなわち最後の預言者は新時代の預言者と呼ばれ、1937 年 2 月 3 日スイスに生まれた。

したがって第 33 章 102 節に「それゆえ彼は長い間苦しむ人の子であり、多くの人生で預言者として生まれ変わり、地球上でヘノクとしてそのミッションを開始するが、『別の時代』にエリヤとして、それからイザヤとして生まれ変わり、そしてエレミヤ、

イマヌエル及びモハメッドと続くであろう」というとき、その意味するところはこうである。約 80 億年前にヘノクがある 1 つの新しい民族を人為的に作り出して、いわゆるヘノク族を創設したが、それは今日まで続いている彼のミッションの始まりであった。そして「... 地球上でヘノクとしてそのミッションを開始する」(389000 年前)。この節で彼の仕事にとって決定的なことは、「... 地球上でヘノクとしてそのミッションを開始するが、『別の時代』にエリヤとして生まれ変わり」(紀元前 891 年 2 月 5 日)という記述である。

ヘノクは約 389000 年前にミッションを担ってはじめて地球に登場し、この惑星でそのミッションを開始した。「別の時代」にエリヤとして生まれ変わるという理由は、エリヤはいわゆる「別の時代」の最初の預言者としてミッション遂行の任務を開始したからである。つまりエリヤは「古代」や「後期/中期」ではなく、それに続く「別の時代」に登場したのである。7 人の順番の中で最初の預言者エノクが第 33 章 102 節で言及されていないのは、彼は地球の任務ではなく、「宇宙の深遠からやって来た者たち」に関わるミッションに従事していたにすぎないからである。このようにエノクは「古代」の最後の預言者であると同時に、「後期/中期」の最初の預言者であるが、地球のミッション遂行にはまだ関係がなかったのである。地球のミッションは「後期/中期」において、紀元前 9308 年 2 月 3 日、2 番目のエノクの誕生をもって開始した。預言者エリヤが登場してから「別の時代」及び時代計算が始まるが、それは紀元前 891 年 2 月 5 日であり、1844 年 2 月 3 日まで続いた。

(出典：FIGU 公報第 50 号)

49 項目の質問と回答

— 生命と人間存在の全般に関する 49 の質問に回答するための道しるべ —

1. 地球外生命体は存在しますか。

Genesis

Saetze 211-240

最初に創造されたのは、創造の自己進化に組み入

れられた形態の生命を維持することが可能であるような、特別な形状と特別な価値を持った形態であり、自己意識のある自立した生命体として、また法則の履行という価値を有するものとして、オメダム

(OMEDAM)と呼ばれるべきものであった。すなわち創造は、その自己進化に組み入れられるべき生命体オメダムの理念を生み出したのである。創造はこの理念から被造物の存在を、存在するために創造された植物相や動物相の、固体と進化の中に置かれた生命と同じ形態で創造した。つまり生命体オメダムは固相および固形において、全宇宙に7×7通りの形態と7×7通りの色合いで創造され、精神的なものと物質的なものという二重性において造り出されたのである。生命体オメダムはその呼び名に相応しく自分自身と、彼らに先立ち存在するようになった他のあらゆる種類の生命体を、空に、海に、陸に、そして彼らの間で支配し、保護し、進化するべきものであり、万物の中で万物と共に、合体した統一体として内面的なものと同外的なものにおいて法則を履行・遵守しながら進化して、完成を履行し、いつか完全なものとして創造自体に到着し、そして完成されたものとして創造と同じ方向に向いて、創造の統一における、かつ創造の統一と共に完成された自己統一として創造の自己進化に組み入れられるのである。

Semjase-Block 1

1. Kontakt, Satz 19-21 (Semjase)

地球人は私たちのことを「地球外生命」とか「異星人」とか、好き勝手な名称で呼んでいます。地球人は私たちについて現実離れしたことをでっちあげていますが、私たちのことを少しも知らないのです。実際のところ、私たちは地球人と同じように人間なのです。ただ、私たちが知識や知恵の面で、また技術的な点においても地球人よりはるかに勝っているだけのことです。

2. 地球外人間はなぜ、どんな目的のために地球に来るのですか。

Semjase-Block 1

1. Kontakt, Satz 35-41 (Semjase)

彼らには用心しなければなりません。彼らはしばしば自分たちの邪魔になるものは誰とでも戦い、何でも破壊するからです。惑星全体を消滅させたり、その全住民を奴隷にしたことも何度かありました。そこで、私たちの任務の一つは、このような野蛮人

の存在を地球人に知らせ、警告することです。このことを地球人に知らせなさい。これらの墮落した人間どもとの衝突が避けられない時が次第に近づいているからです。

もう一つの任務は、教派や宗教およびそれと結び付いた人間の意識の発達不全を警告することです。すべてに勝り、あらゆる生き物の生と死を支配するものは、ただ一つしかありません。それは万物について法則を定めた創造だけです。決して覆すことができない、永遠に有効な法則です。

Semjase-Block 1

1. Kontakt, Satz 57-60 (Semjase)

宗教とは、人間の誘導、抑圧および搾取を目的とする人間の拙劣な作り物にすぎず、それに溺れるのは意識の弱い生命だけです。この真実を白日のもとに曝し、人々に知らせなさい。これも私たちの任務です。さもなければ、人類は徐々に自己崩壊し、完全な「霊的な闇」(意識の闇)に陥るでしょう。

Semjase-Block 1

3. Kontakt, Satz 14-17 (Semjase)

私たちはこの宇宙にすでに存在し、発展を続けている人間を守るという義務を任務としているにすぎません。つまり秩序を維持し、特定の生命を見守るよう努めているのです。指令があれば、私たちはあちこちで様々な世界の住人に接近し、何人か選り出して教示しています。ただしこれを行うのは、ある人種がかなりの程度まで発展して、徐々に思考し始めるようになってからのことです。自分たちがこの宇宙で唯一の思考する生き物ではないという考え方に徐々に慣れるよう彼らに準備させるのです。私たちはあちこちでテレパシーを使ってある種の認識を芽生えさせたり、時代が求める技術的な発明をさせたりして手助けしています。

3. 彼らはなぜ公然と登場しないのですか。またどうしてすべての人間が彼らとコンタクトを取れないのですか。

Semjase-Block 2

24. Kontakt, Satz 12 (Semjase)

最後にもう一度だけ、あなた以外の人物といかなる形であれコンタクトを取ることは全く不可能であることについて説明します。それは以下に挙げる理由からです。

- 1) 私たちがある地球人とコンタクトを取る場合、その地球人がそれまでの数十年間にわたりあらゆる分野で研鑽^{けんさん}を積んでいることが条件となります。
- 2) 私たちは霊的意識的な面で必要な前提条件が満たされている場合しか、地球人とコンタクトを取ることができません。つまり意識的に良好なだけでは十分ではないのです。霊的な発達は何よりも重要だからです。
- 3) 私たちはある地球人がその発展段階において非常に進んでいて、同胞の言うことや書物に書かれていることや宗教または教派の規範などに惑わされることなく、独力で真理の中の根本的な真理を浮き彫りにして認識できる場合にのみ、その地球人とコンタクトを取ることができます。
- 4) これらの前提が満たされることなく私たちがあある地球人とコンタクトを取るとき、そのようなコンタクトは特定の目的のために一時的に企てるものにすぎません。その場合目的が達成された後、その人間の中にある私たちに関する記憶等は抹消されます。たとえば私たちがタルムードを発見させた人物のケースがこれに当たります。けれどもそのような人物には、公然と登場することを必要とするような何らかの使命を課すことはできません。なぜならば、これらの人物の記憶は抹消され続けるので、彼らの意識には相互の関連も正確な事実も存在しないからです。しかし、そのような地球人もごく特定の知識分野で非常に発達してはなりません。タルムードの発見者がその一例で、言語に非常に精通していましたが、私たちは彼に過度な期待をかけ過ぎたようです。
- 5) 私たちが地球人とコンタクトを取るときは、ある高次の指示に従い、必ず正確に指定された数の生命体だけを対象とします。その理由の一つは、重要な地位にあまりに多くの人間が関与するとすべてを台なしにしてしまうからです。このように説明していて、あなた方が非常によく用いる、こ

の場合にぴったりの諺^{ことわざ}を思い出しました。「料理人が多すぎて粥^{かゆ}が台なしになる(船頭多くして船山に登る)」というものです。それは、創造の法則と掟に関する教えにおいてもその正しさが証明され、不動の位置を得ている事実なのです。創造のみが規定するものだからです。

- 6) 私たちは、自分たちで責任を負えない限り地球人に姿を見せてはなりません。このように用心するのは、特に私たちのシップやその他すべての事物を手に入れようとしている個人、軍隊および官庁の欲望が念頭にあるからです。したがって多くの人とコンタクトを取ることは、波動の点でも有害であり、私たち自身にとって危険でもあるのです。だから私たちがコンタクトを取れるのは、波動の点で私たちと調和でき、全幅の信頼を置くことができ、あらゆる点で熟知している地球人に限られるのです。このことは、まさに私たちがあなたやあなたのグループとともに遂行する特殊な使命にとって、広範囲に及ぶ重要な意味を持っているのです。だから、必要な場合にはおよそ考えられる限りの手段を用いて、会見者に悪い結果が及ぶのを防ぐことが、あらゆる点で確実にできなければならないのです。
- 7) 私たちが選別された極めて特定の地球人にしか自分たちの存在を知らせず、秘密の道や行きにくい場所でコンタクトを取ることは次のような理由もあります。数え切れない人間がひたすら刺激と利己心を追求していますが、彼らはその理由だけで私たちとコンタクトを取りたいと思っているのです。しかしまた、私たちを目撃したらパニック状態に陥り、非常に危険な影響を招く恐れのある人間も無数にいます。

次号に続く

(この記事は、FIGU49名の基幹グループが取りまとめた冊子『49項目の質問と回答』を翻訳したものです。『フィグ・ヤーパーン通信』の新連載として、順次掲載していきますので、どうぞ楽しみに。)

フィグ・ヤーパンからのお知らせ

□ これから出る本 □

書籍類については、巻頭でご案内したとおり、8月に『プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(2)』を出版予定です。現在、版下の作成や、印刷製本の準備を進めています。さらに、シリーズ続編についても、翻訳・校正作業が開始されています。一方で、9月頃に『瞑想入門』を出版予定です。現在、翻訳者による2回目の校正作業が行なわれています。その他、高次の霊形態からのインパルスが記された『アラハト・アテルザータ』の翻訳作業が進められています。

書籍類に加えて、小冊子の翻訳出版も予定しています。次号『フィグ・ヤーパン通信』では、ビリーが少年時代に記した随筆を取りまとめた作品をご案内する予定です。さらに、「霊の教え」に関する事柄を解説した作品を翻訳中です。

□ 講演会の開催予告 □

フィグ・ヤーパンでは、FIGUスイスの基幹会員を招いた講演会の開催を企画中です。講演会が実現すれば、1998年、2003年に続き、今回で3回目となります。講演会の開催日程は、9月下旬または10月上旬を予定しています。詳しくは、次号『フィグ・ヤーパン通信』またはホームページにてお知らせいたしますので、どうぞご期待ください。

出版支援のお願い

日頃、フィグ・ヤーパンの活動に対しご支援いただき誠にありがとうございます。フィグ・ヤーパン設立当初は困難を極めた活動がようやく軌道に乗り、その成果としての翻訳本も徐々に増えつつあり、これも読者の皆様のご支援の賜物と感謝しております。

さて、フィグ・ヤーパンの活動が順調に進むにつれて、翻訳・出版のペースも少しずつ速くなってきています。このため出版のペースに資金面で追いつかない状況になりつつあります。一冊の書籍を翻訳出版するためには、翻訳代、印刷製本代などを合わせて、およそ400万円の資金が必要となります。このままでは資金が底をついた時点で出版を一時停止せざるを得ません。

多くの読者が待ち望む翻訳本を、資金的な理由から一時停止しなければならないことは、私達としても不本意であり、誠に残念なことでもあります。翻訳出版を安定して続けていくためには、皆様からのご支援が是非とも必要です。なお、フィグ・ヤーパンのスタッフは全員無報酬で活動しておりますので、いただいたご支援はすべて翻訳出版に用いられます。改めて、フィグ・ヤーパンの活動に対するご理解とご協力をお願いいたします。

〈読者からの便り(書籍の感想)〉

・『わずかばかりの知識と知覚そして知恵』は、誰にでも理解できる言葉で書かれているにもかかわらず、奥深い内容で、じっくり時間をかけて読みたい本です。この本にめぐり合えたおかげで今後の人生の道しるべができました。(山梨県 男性)

・『プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(1)』には、人間は創造霊の一部を宿しており創造の法則によって転生をくり返し、やがて創造に達して永遠の存在へと至るとあります。この内容を知ったとき「ああ遂に本物を見つけた、何と真理は明解なことか！」その感動は今も忘れることがなく、感動は今も続き、巡り合えた幸運を感謝しています。(山梨県 男性)

・『預言者エレミヤとエリヤの予告』には、すでに起き

た事柄も書かれており、いくつかは確認できます。人間は想像を絶する戦争や自然災害を回避したり、食い止めたりすることができる場所をすでに通り過ぎてしまったのだろうか。(愛知県 男性)

・『パートナーシップ』を読んで、より良いパートナーシップを築くには、日々の努力が大切なのだと、つくづく思いました。いつも手元に置きたい本です。

(山梨県 女性)

・フィグの書籍には、「創造と自然の法則と掟」という言葉がよく出てきます。このことを詳しく解説した書籍の出版を待ち望んでいます。(埼玉県 男性)

(フィグ・ヤーパンから出版された書籍や冊子の感想文をお待ちしております。)

出版物のご案内

■プレアデス/プレヤール人とのコンタクト記録(1) (水瓶座時代出版刊)

価格 2,000 円 (税込 送料別 375 グラム)

■わずかばかりの知識と知覚そして知恵(新風舎刊)

価格 3,150 円 (税込 送料別 870 グラム)

■宇宙の深遠より 一地球外知的生命プレアデスとのコンタクト (徳間書店刊)

価格 2,940 円 (税込 送料別 550 グラム)

■日本語版 水瓶座時代の声

価格 各 1,000 円 (税込)

83/2 号 (特集) (送料別 105 グラム)

87/1 号 (特集) (送料別 140 グラム)

91/1 号 (特集) (送料別 135 グラム)

■第 235 回会見

価格 500 円 (税込 送料別 70 グラム)

■日本語版 FIGU 公報

6 号 価格 500 円 (税込 送料別 90 グラム)

30 号 価格 500 円 (税込 送料別 155 グラム)

38 号 価格 500 円 (税込 送料別 160 グラム)

■精神と物質の生命

価格 500 円 (税込 送料別 55 グラム)

■預言者エレミヤとエリヤの予告

価格 400 円 (税込 送料別 70 グラム)

■エノクの預言

価格 300 円 (税込 送料別 55 グラム)

■『瞑想入門』の手引き

価格 300 円 (税込 送料別 70 グラム)

■地球に平和あれ

価格 300 円 (税込 送料別 55 グラム)

■男と女に対する言葉

価格 200 円 (税込 送料別 35 グラム)

■パートナーシップ

価格 200 円 (税込 送料別 35 グラム)

■昨日、今日、明日の心配に関する考察

価格 100 円 (税込 送料別 15 グラム)

■生と死は互いに切り離しがたく結びついている

価格 100 円 (税込 送料別 25 グラム)

■FIGUの原則あるいは人間の原則

価格 300 円 (税込 送料別 40 グラム)

■プレヤール人が地球人に望むこと

価格 200 円 (税込 送料別 30 グラム)

※その他の書籍につきましては、フィグ・ヤーパンのホームページ等をご覧ください。

□ 書籍のご注文について □

すべての書籍・ビデオ類のご注文は、郵便振替にて承っております。ご希望の書籍・ビデオ代金に以下の郵便料金を加えた金額を、お近くの郵便局から下記フィグ・ヤーパンの口座宛にお振込みください。なお、現金書留および切手同封による直接のお申し込みはご遠慮ください。

□ 郵便料金表 □

50 グラムまで 120 円	500 グラムまで 290 円
100 グラムまで 140 円	1000 グラムまで 340 円
150 グラムまで 180 円	2000 グラムまで 450 円
250 グラムまで 210 円	3000 グラムまで 590 円

※ 15,000 円以上あるいは 3000 グラムを超える場合の郵送料は無料です。

□ 振込用紙の記入欄 □

口座番号：00160-4-655758

加入者名：FIGU-JAPAN

(アルファベットで記入して下さい)

金額：送料を含めた合計金額

払込人：あなたの住所、氏名、電話番号

通信欄：購入する書籍名と冊数

フィグ・ヤーパン通信 第 22 号 (無料)

発行日 2005 年 4 月 1 日

発行 フィグ・ヤーパン (FIGU-JAPAN)

住所 〒192-0916

東京都八王子市みなみ野 3-11-2-305

電話 0426 (35) 3741

FAX 0426 (37) 1524

URL <http://jp.figu.org/>

E-mail jp@figu.org

郵便振替 00160-4-655758

加入者名 FIGU-JAPAN

本書の全部または一部を無断で複写複製することは、著作権法上の例外を除き禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、フィグ・ヤーパンにご連絡ください。

Copyright (c) 2005 by FIGU-JAPAN. All rights reserved.